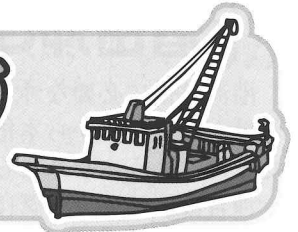




何でも魚^{うお}ツチング

No.76

『救世主現る?』



この原稿が活字になる頃は、底びき網漁業が解禁から一ヶ月程経過し、定置網漁業もサケ漁が本格化する一歩手前といった時期でしょうか。また、厄介者のエチゼンクラゲを主とする大型クラゲは、現時点(9月上旬)では少数ではありますが、対馬海峡に姿を現しました。

2009年、大型クラゲは6月中旬に済州島に出現し、7月上旬には対馬近海に出現後、漸増傾向で、日本海を東進北上し、底びき網漁業の解禁日には山形県沿岸にも出現しました。また、出現した各海域では日を追うごとに数の増加がみられました。さらに、その後は年末まで状況が変わらず、大型クラゲが襲来するようになって最悪の年となっていました。

2010年は、8月下旬に東シナ海で高密度の出現の情報があるものの、朝鮮半島の韓国沿岸に少数出現の情報がある程度で、日本近海での出現情報はありませんでした。山形県沿岸では11月中旬以降に極少数の出現情報があったものの漁業被害にまでは至らず、ほっとしたところでした。

今年はどうかというところ、8月上旬に黄海中央海域において少数の出現が確認されていますが、対馬海峡を通過した大型クラゲは非常に少ない状況です。また、日本海に流入した大型クラゲは大部分が沖合域に運ばれ、沿岸域では能登半島以西において散発的に出現する程度と予測(水産総合研究センター)されています。しかし、2007年のように9月下旬にまとまった出現が認められた事例もありますので、今後とも大型クラゲの情報に注意してください。

以前、水中で撮影された動画で、大型クラゲがウマヅラハギの群れにつつかれて餌食になっている状況を見る機会がありました。この動画は定置網の中で撮影された様子で天然の海域とは事情が異なるのでは?と想像していたのですが、先日、面白い光景を見る機会に恵まれました。それは8月初めの昼下がり、加茂港外港の南防波堤と離岸堤の間に港外から港内に海水が流れ込み、その流れに乗って直径20cm程度

の多数のミズクラゲが港内に流れ込んでいました。それを観察していると、流れの下流側でミズクラゲの触手側に魚が取り付いているのが幾度となく見受けられました。さらによく見ると、魚は全長10cm前後の当歳魚とおぼしきウマヅラハギで、ミズクラゲの触手をつつきながら食べているようで、1個体の触手をつつき飽きると次のミズクラゲを見つけて触手をつつくということを繰り返しています。ミズクラゲ1個体に取り付く魚は10尾に満たない程度ですが、取り付かれたミズクラゲによつては傘が崩れ海底に沈んでいくものもありました(写真)。情報としては前から見聞きしていたのですが、実際に目の当たりにして、ウマヅラハギがクラゲの天敵であることをよく理解した次第です。

ウマヅラハギの分布域は日本周辺および東シナ海、黄海で大型クラゲの分布と重なります。水産総合研究センターが出しているウマヅラハギの資源評価にはウマヅラハギが何でも食べる悪食ですが好んでクラゲを食べるとまでは読み取れません。しかし、「近年、エチゼンクラゲを餌としたウマヅラハギの籠網漁が日本海で増加している」との記述もあります。また近年のウマヅラハギの資源水準は低位で資源動向は横ばいとなっていますが2010年に限ってはいえ、ここ数年の中では漁獲量が増えています。「これはつー!昨年、大型クラゲの襲来が収まったのはウマヅラハギのおかげかっ!」と考えるのはあまりにも短慮ではありますが話の種にはなるかな?と思ってしまうかもしれません。

さて、本題に戻ります。大型クラゲの情報ですが、最近では、各家庭にインターネットが普及し、最新の情報を簡単に入手することが出来ます。インターネットを利用できる場合は、グーグル等の検索サイトで日本海区水産研究所もしくはJAFFIC(漁業情報サービスセンター)で検索をしてから、大型クラゲで絞り込み検索をすれば、最新の情報が得られます。日本海区水産研究所の大型クラゲ情報のホームページからは韓国国立水産科学院による韓国沿岸域を



ミズクラゲとそれに取り付くウマヅラハギ幼魚

中心とした出現情報や日本国内の大学や水産研究所等の東シナ海や日本海南海域の情報にはいりません。JAFFICの大型クラゲ情報のホームページからは漁業関係団体、道府県の水産研究機関等からの情報をもとに、日本海を中心とした毎日の出現情報が手にはいります。また、インターネットに縁が無い方は、水産試験場が随時、県漁協の各支所に情報発信していますので、各支所でこの情報を確認してください。先程、「今後とも大型クラゲの情報に注意してください。」と書き込みましたが、県内の漁業者をはじめとする各道府県の漁業関係者や水産研究機関からの情報が集められて、JAFFICのホームページになります。なかでも、JAFFIC発行の大型クラゲ出現位置マップ等(日毎の分布情報等)は各道府県の詳細な来遊状況の把握と報告で成り立っています。山形県においても詳細な来遊情報を入手する必要があります。このため、関係漁業者や関係機関の協力を必要としており、なほ一層のご協力をお願いいたします。

この号が発行される頃に、情報提供表を関係各船に配布し、情報提供をお願いすることにしておりますので、その配布及び回収についてよろしくお願いいたします。

水産試験場 浅海増殖部長 鈴木 裕之

●今一度!! 「あせらず」「無理せず」「油断せず」